

久保・長江中学校区の学校再編について 説明会資料

尾道教育の新しい風

尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校

令和4年11月22日 尾道市教育委員会

(目次)

1	これまでの取組について	3
2	学校の在り方について	9
3	施設面からの検討について	30
4	まとめ	58

1 これまでの取組について

H15年度～H27年度 までの検討

基本方針：現在地での耐震補強

H15 耐震診断（1次診断）

久保小、長江小、土堂小の校舎に耐震性がないことを確認

H21～H24 耐震診断（2次診断）

久保小、長江小、土堂小ともに、低強度コンクリートが存在するため耐震補強は不可と判断

建替えではなく保存したい

免振工法の検討

新たな耐震補強手法の探索

歴史的な建物（文化財の価値）

H25頃 施工可能な耐震補強の工法の発見

H26～H27 耐震設計

久保小、土堂小 耐震補強の設計完了
長江小 → 特別教室棟は耐震補強不可+普通教室棟は耐震補強に加え一部解体が必要

1 これまでの取組について

H28年度 検討内容

H27年度の耐震補強工事実施設計を受けて

久保小学校：現在地で耐震補強

長江小学校：現在地にて改築+耐震補強
(山際に建つ特別教室棟は耐震補強不可)

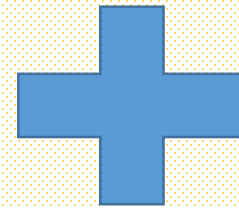
土堂小学校：現在地で耐震補強

進入路が狭いため、長江小学校
へ改築ができるのか？

敷地の狭い、土堂小では児童が
居ながらの工事（居ながら施
工）ができるのか？

基本方針：現在地での耐震補強

久保小、土堂小は築80年を経過し、
文部科学省の示す長寿命化改修を行って
80年を使用する指針の年数を既に経過
→継続使用できるのか？



大規模改修が必要？

【理由】

校舎の老朽化が著しく、耐震化した
としても使用できる期間が短い懸念
がある

尾道市では、警戒区域内に新たな建物
は建築しない（安全面の配慮）

土砂災害防止法の
警戒区域、特別警戒区域の指定

1 これまでの取組について

H29年度～H30年度 検討内容

土砂災害防止法の区域設定を受けて

久保小学校：現在地で耐震補強
(大規模改修を含む)

長江小学校：別敷地に改築

土堂小学校：現在地で耐震補強
(大規模改修を含む)

H31.2
土堂小学校育友会へ居ながら施工
が困難であることを説明

基本方針：現在地での耐震補強
※ただし、長江小学校は別敷地に改築

別敷地での改築が必要であるが、適地が見当たらない

工事中グラウンドがない状況となるため、居ながら施工が困難。解決策を模索する状況
※場合によっては、別敷地に整備も視野に入る可能性

それぞれの課題に対して解決策が
見当たらない状況

1 これまでの取組について

H31 (R1) 年度 検討内容

早急な安全確保のために

R1.11 3小学校統合校の提案

関係者の反対

久保小学校

山波小学校へ転校

長江小学校

栗原小学校へ転校

土堂小学校

栗原小学校へ転校

3小学校統合校の設立
(久保小学校敷地内)

2度の転校は児童への負担が大きい

基本方針：現在地での耐震補強

別の敷地での対応

一旦 白紙撤回へ

1 これまでの取組について

R2年度 検討内容

基本方針：仮校舎への移転による安全確保

関係者からの反対意見を踏まえて

学校統合への理解が得られない中、統合と耐震化の問題を切り離して早期の対応を図るため、まずは児童の安全確保を最優先とし、3小学校とも耐震性のない建物を未使用化とし、仮校舎への移転を検討

候補地：久保中学校敷地、長江中学校敷地、商店街内、閉校となった旧学校施設、千光寺公園Gなど

R2から3小学校に加え、久保中、長江中PTA（役員）とも協議開始

今後は、中学校を含めた整備を考えていることを提示（仮校舎の建築を含め、中学校敷地を利用した整備が必要となる）

1 これまでの取組について

R2年度～R3年度 検討内容

早急な安全確保のために

基本方針：仮校舎への移転による安全確保

↓
適正な学校規模の確保

安全確保完了

久保小学校

久保中学校敷地へ
仮校舎

R3.4～
仮校舎へ移転

長江小学校

長江中学校敷地へ
仮校舎

R3.4～
仮校舎へ移転

土堂小学校

千光寺公園グランドへ
仮校舎

R3.9～
仮校舎へ移転

保護者へ
の説明

R3.9以降

将来の学校の在り方について、検討・協議を始める

2 学校の在り方について

検討にあたっての考え方

①安全性の確保

公共施設は利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域では新たな施設整備は行わない。

(周囲の大半が区域内となる長江小、土堂小敷地での改築または新校舎の整備は好ましくない)

②校舎の耐久性（建築年数に伴う影響）

(ア) 3小学校の校舎は、建築年数が経過しており、耐震化しても今後継続して使用できる年数が多く見込めない

(イ) 大規模改修での延命も文部科学省の示す築80年を経過している建物であるため困難

※現在の校舎を耐震補強して使用し続けることは行わない方針

③適正な学校規模の確保

尾道市では、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級を掲げている。今後の児童推計を見込み、1学年複数学級となる学校規模での再編を行い、安全な敷地への施設整備を行いたい。

(現在地で**現在の学校規模での新校舎**の建築は行わない方針)

2 学校の在り方について

検討にあたって（結論）

①安全性の確保

敷地内、周囲の大半が
土砂災害特別警戒区域

長江小学校敷地、土堂小学校敷地には新たな施設整備は行わない

②校舎の耐久性（建築年数に伴う影響）

築80年を経過した建物

久保小学校（S8建築）、土堂小学校校舎（S12建築）の継続使用は行わない

2 学校の在り方について

検討にあたって（結論）

③ 適正な学校規模の確保

久保小学校、長江小学校、土堂小学校の再編の検討が必要
（現在の学校規模での施設整備を行わない）

児童推計が1学年単一学級を
継続する見込み
（土堂小はR7～単一学級）

長江中学校の再編の検討が必要
（現在の学校規模での施設整備を行わない）

生徒推計がR11から
1学年単一学級となる見込み

山波小学校はR7年度での学校再編は行わない

児童推計が今後も1学年
複数学級を継続

2 学校の在り方について

学校再編年度

学校再編年度は、R7年度 とする

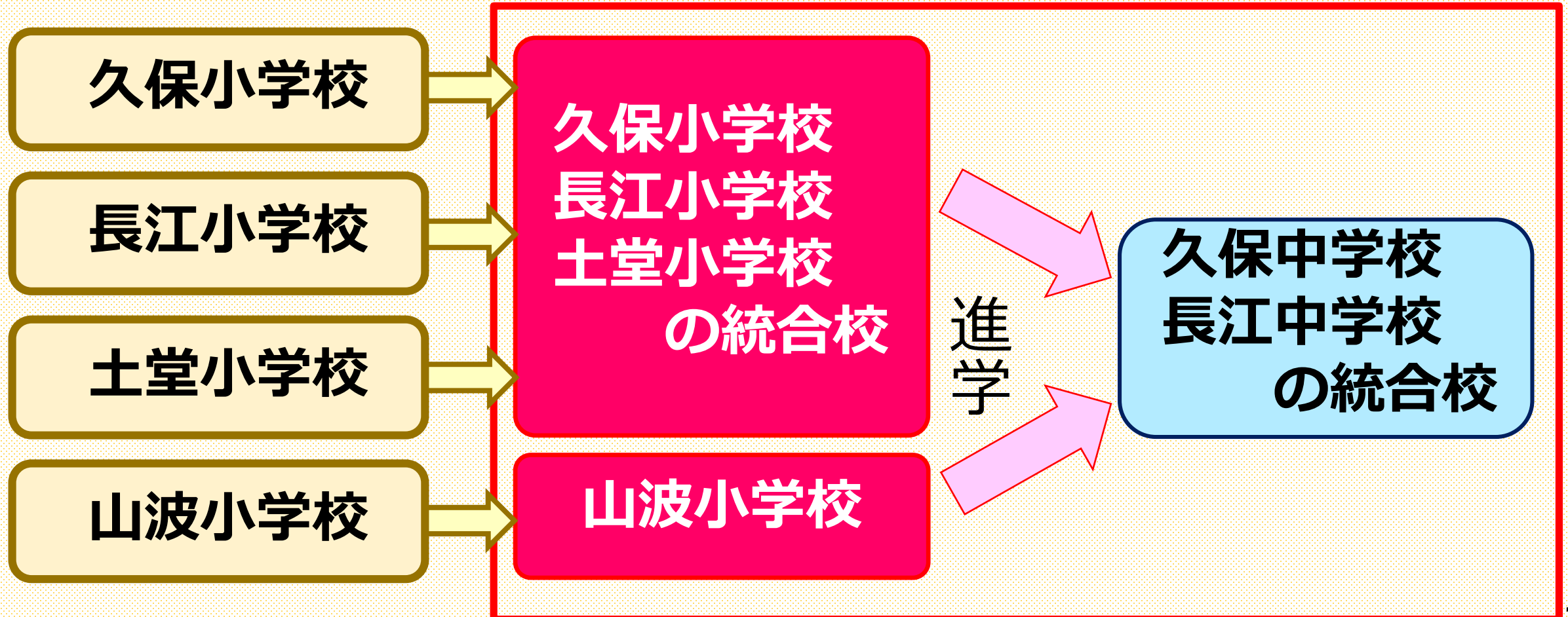
久保小学校、長江小学校、土堂小学校において、

『学校再編を行うことを説明する前に入学した児童（R1年度入学の児童）が自ら学校選択した学校』
で卒業できる年度で再編を行うため

2 学校の在り方について（検討結果）

小中一貫教育校

（令和7年度開校 ⇒ 令和9年度新築校舎使用開始）



2 学校の在り方について

小中一貫教育校とは

- それぞれ独立した小学校と中学校
- 小学校と中学校が、目指す子供像を共有し、
9年間を通した教育課程を編成
系統的な教育を行う

15歳の生徒に身につけさせたい力

(自己を認識する力 自分の人生を選択する力 表現する力)

2 学校の在り方について（新しい学校のイメージ）

新たな学校で新たな学びを創造し、
尾道スタンダードとして市内全体へ広がっていきます

【知】 豊かな学力

- 高学年への教科担任制の導入により、質の高い授業を行い、学力の向上を目指します。
- 英語教育を充実させ、コミュニケーション能力や、語彙力を育成します。
- ICT機器を積極的に活用した授業や家庭学習を行い、情報活用能力を育成します。

【徳】 豊かな心

- ふるさと学習（おのみち学）の学びを通して、郷土を愛する心を育てます。
- 道徳教育や特別活動を充実させ、体験や経験を通して、人を思いやる心を育てます。
- 児童が安心して学校生活を送ることができるよう、カウンセリング体制を充実させます。

【体】 健やかな体

- 運動時間を増やす取り組みを充実させ、体を動かす習慣を定着させます。
- 食育や情報モラル教育等を充実させ、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の確立を目指し、健康で活力ある児童を育成します。

【情報】 地域に開かれた学校づくり

- 中学校、山形小より年間の系統的な教育課程を編成し、小中一貫した教育を進めます。
- 匠業者や地域の力を学校運営に生かす中学校区が一体となったコミュニティ・スクールを導入し、魅力のある学校の実現を図ります。

小学校・中学校の9年間を見通した、系統的な教育課程による小中一貫教育の実施

1学年複数学級による個別最適化した教育環境の実現

郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成

尾道が目指す小中一貫教育

小中一貫教育の導入のねらい

義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めること
※「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」平成28年12月26日更新科学部管理

- 目指す子ども像
郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子ども
- 15歳の生徒に身に付けさせたい力
自己を認識し、人生を選択し、表現できる力
- 育てたい資質・能力
学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等
実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等

新たな学校の教育課程

総合的な学習の時間を中心に「資質・能力」を育成

9年間を連続したカリキュラム	教科担任制	3年生	総合的な学習の時間 スクールブライド（学校への愛着や誇り）の醸成	進路実現のガイダンスの充実		
	移行期間	2年生			地域人材の活用による「ふるさと学習」の推進	高学年における教科担任制の導入
		中学校1年生				
	学級担任制	6年生	節目となる式の実施や職業について考えるキャリア教育の充実			
		5年生				
		4年生				
		3年生				
	2年生	生活科	学びの楽しさ、わかる喜び			
	小学校1年生					

コミュニティ・スクール

小学校専科教員の配置

小学校英語非常勤講師の配置

ALTの常駐化

部活動の充実

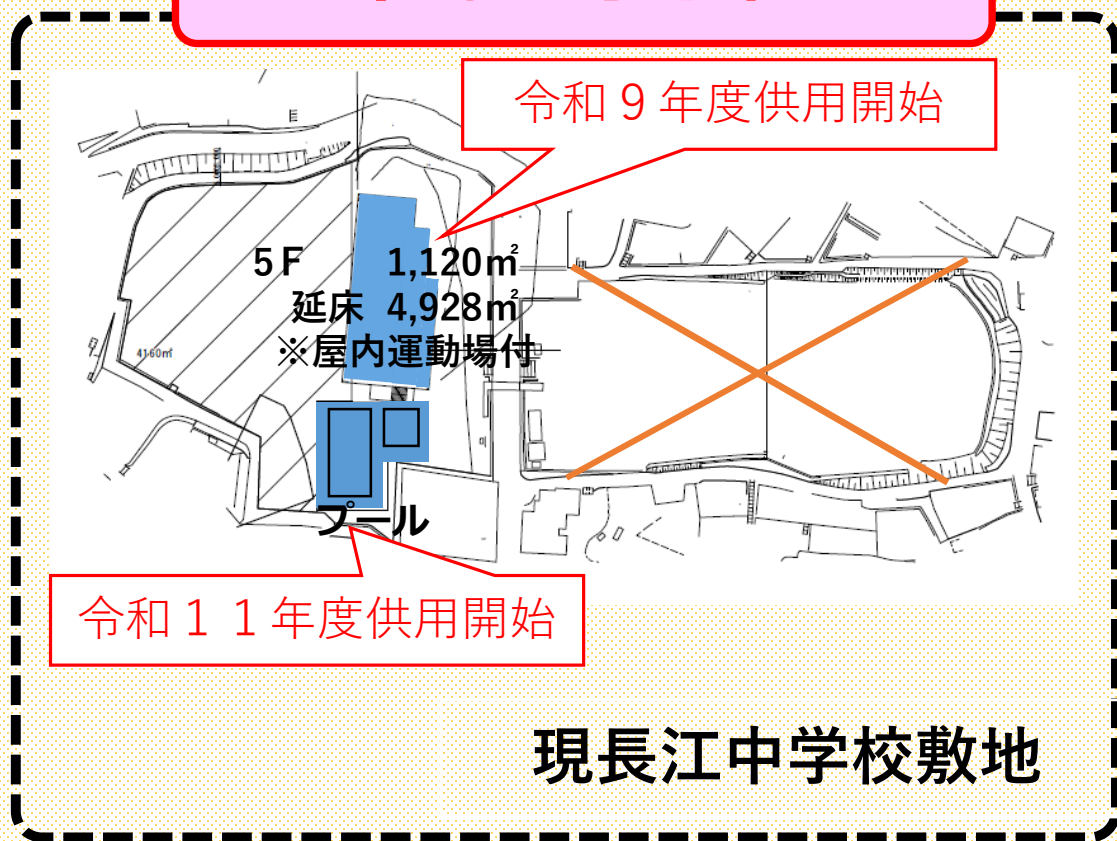
学校司書の配置

SSWの常駐化
(スクールソーシャルワーカー)

2 学校の在り方について（新しい学校のイメージ）

令和7年度開校 ⇒ 令和9年度新築校舎使用開始

新しい小学校



新しい中学校



2 学校の在り方について（検討結果の理由）

尾道市小・中学校再編計画より（平成23年12月）

学校再編の理由

1) 適正な学校規模の確保

- ◎ 複式学級の早期解消
- ◎ 1 学年複数学級化の推進

2) 学校施設の耐震化の推進

- ◎ 耐震化工事対象校の精査（耐震化率100%の早期実現）

3) 尾道15年教育の推進

- ◎ 1 中学校区における、1 小学校及び認定子ども園の配置を推進

子供たちにとっての
よりよい教育環境

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

【久保小学校】児童数の推移（資料 1 参照）

	R 4		R 7		R 1 0	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1 年生	1 6	1	1 2 (17)	1	1 4 (19)	1
2 年生	1 5	1	1 2 (17)	1	1 9 (24)	1
3 年生	1 6	1	1 7 (22)	1	1 5 (20)	1
4 年生	1 4	1	1 6	1	1 2 (17)	1
5 年生	1 7	1	1 5	1	1 2 (17)	1
6 年生	2 3	1	1 6	1	1 7 (22)	1
特支（知的）	4	1	2	1	0	0
特支（自情）	4	1	2	1	0	0
計	1 0 9	8	9 2 (107)	8	8 9 (119)	6

（ ）内の数値は、令和 5 年度以降の学校選択制による入学者（5 人）を加えた場合

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

【長江小学校】児童数の推移（資料1参照）

	R 4		R 7		R 1 0	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年生	17	1	14 (19)	1	10 (15)	1
2年生	18	1	20 (25)	1	16 (21)	1
3年生	23	1	18 (23)	1	7 (12)	1
4年生	29	1	17	1	14 (19)	1
5年生	20	1	18	1	20 (25)	1
6年生	26	1	23	1	18 (23)	1
特支（知的）	2	1	0	0	0	0
特支（自情）	8	1	8	1	0	0
計	143	8	118 (133)	7	85 (115)	6

（ ）内の数値は、令和5年度以降の学校選択制による入学者（5人）を加えた場合

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

【土堂小学校】児童数の推移（資料1参照）

	R 4		R 7		R 1 0	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年生	7	1	10 (15)	1	3 (8)	<u>1</u>
2年生	20	1	13 (18)	1	5 (10)	
3年生	31	1	11 (16)	1	14 (19)	1
4年生	45	2	7	1	10 (15)	1
5年生	56	2	20	1	13 (18)	1
6年生	54	2	31	1	11 (16)	1
特支（自情）	2	1	2	1	0	0
特支（難聴）	1	1	0	0	0	0
計	216	11	94 (109)	7	56 (86)	5

（ ）内の数値は、令和5年度以降の学校選択制による入学者（5人）を加えた場合

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

【山波小学校】児童数の推移（資料1参照）

	R 4		R 7		R 1 0	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年生	40	2	57	2	36	2
2年生	47	2	45	2	42	2
3年生	55	2	46	2	44	2
4年生	39	1	40	2	57	2
5年生	37	1	47	2	45	2
6年生	51	2	55	2	46	2
特支（知的）	5	1	2	1	0	0
特支（自情）	19	3	11	2	0	0
計	293	14	303	15	270	12

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

複数学級化のメリット【子供たちにとって】

- クラス替えが可能になる
 - ⇒人間関係の固定化につながらない
 - ⇒クラスごとに切磋琢磨することができる
- 教科担任制による専門的な指導を実施しやすい
- 複数の教員により、組織的な指導が可能になる
 - ⇒ 多面的な児童理解を通じた児童の心の安定につながる
- 生徒が増えることにより、部活動の活性化につながる

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

複数学級化のメリット【**学校運営**にとって】

- 教員どうしの切磋琢磨が生じやすい
⇒ 指導力の向上

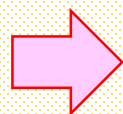
複数学級化のメリット【**保護者**にとって】

- P T A 活動等の活性化につながる

2 学校の在り方について（検討結果の理由）

3つの小学校の統合校

山波小学校



2つの中学校の統合校

（資料2参照）

	R4		R5		R6		R7		R8		R9		R10		
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	
3小学校の統合	小学校 1年生	40	2	46	2	45	2	36	2	36	2	40	2	27	1
	2年生	53	2	40	2	46	2	45	2	36	2	36	2	40	2
	3年生	70	2	53	2	40	2	46	2	45	2	36	2	36	2
	4年生	88	3	70	2	53	2	40	2	46	2	45	2	36	2
	5年生	93	3	88	3	70	2	53	2	40	2	46	2	45	2
	6年生	103	3	93	3	88	3	70	2	53	2	40	2	46	2
	特支 知的	6	1	6	1	4	1	2	1	2	1	0	0	0	0
	特支 自情	14	2	14	2	13	2	12	2	7	1	4	1	0	0
	特支 難聴	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小学校 計	468	19	410	17	359	16	304	15	265	14	247	13	230	11	
山波小学校	小学校 1年生	40	2	46	2	45	2	57	2	44	2	42	2	36	2
	2年生	47	2	40	2	46	2	45	2	57	2	44	2	42	2
	3年生	55	2	47	2	40	2	46	2	45	2	57	2	44	2
	4年生	39	1	55	2	47	2	40	2	46	2	45	2	57	2
	5年生	37	1	39	1	55	2	47	2	40	2	46	2	45	2
	6年生	51	2	37	1	39	1	55	2	47	2	40	2	46	2
	特支 知的	5	1	5	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0
	特支 自情	19	3	14	2	12	2	11	2	6	1	2	1	0	0
	小学校 計	293	14	283	13	286	14	303	15	285	13	276	13	270	12

小学校
2学級規模

中学校
3学級規模

統合の効果は大きい

	R4		R5		R6		R7		R8		R9		R10		R11		R12		R13		
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	
2中学校の統合	中学校 1年生	106	3	142	4	120	3	117	3	115	3	92	3	74	2	86	3	83	3	86	3
	2年生	120	3	106	3	142	4	120	3	117	3	115	3	92	3	74	2	86	3	83	3
	3年生	109	3	120	3	106	3	142	4	120	3	117	3	115	3	92	3	74	2	86	3
	特支 知的	6	1	3	1	7	1	7	1	8	1	6	1	4	1	3	1	0	0	0	0
	特支 自情	10	2	13	2	12	2	10	2	15	2	19	3	23	3	13	2	6	1	0	0
	特支 難聴	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校 計	351	12	385	14	388	14	397	14	375	12	349	13	308	12	268	11	249	9	255	9	

そのほかの検討内容

① 義務教育学校（久保中学校区）


- ・久保小＋山波小＋久保中

② 義務教育学校（長江中学校区）


- ・長江小＋土堂小＋長江中

③ 小中一貫教育校

- ・久保小＋長江小＋土堂小＋山波小
- ・久保中＋長江中



小学校と中学校が
1つの学校に



1つの小学校と
1つの中学校に

義務教育学校とは

- 1人の校長・1つの教職員組織
- 9年間の学校教育目標と9年間の系統性を確保した教育課程

メリット

- ・教科指導や生徒指導等に、全教職員が共通認識を持って取組を行うことができる
- ・異学年交流により、精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待できる
- ・中1ギャップの解消や緩和につながる
- ・小学校高学年を中心に教科担任制が可能となる

デメリット

- ・小学校高学年でのリーダーシップを発揮する場や自主性を養う機会が減少する
- ・小学校卒業という達成感が見込めない
- ・体育館・グラウンド等の利用に一定の制約が伴う

① 義務教育学校（久保中学校区）

・久保小＋山波小＋久保中

	R 4		R 5		R 6		R 7		R 8		R 9		R 1 0							
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	R 1 1	R 1 2	R 1 3			
小学校 1 年生	56	2	63	2	57	2	69	2	59	2	61	2	50	2						
2 年生	62	2	56	2	63	2	57	2	69	2	59	2	61	2						
3 年生	71	3	62	2	56	2	63	2	57	2	69	2	59	2						
4 年生	53	2	71	3	62	2	56	2	63	2	57	2	69	2						
5 年生	54	2	53	2	71	3	62	2	56	2	63	2	57	2						
6 年生	74	2	54	2	53	2	71	3	62	2	56	2	63	2						
特支 知的	9	2	9	2	5	1	4	1	3	1	0	0	0	0						
特支 自情	23	3	18	3	15	2	13	2	7	1	2	1	0	0						
小学校 計	402	18	386	18	382	16	395	16	376	14	367	13	359	12	R 1 1	R 1 2	R 1 3			
中学校 1 年生	43	2	68	2	50	2	49	2	65	2	57	2	52	2	58	2	52	2	63	2
2 年生	51	2	43	2	68	2	50	2	49	2	65	2	57	2	52	2	58	2	52	2
3 年生	46	2	51	2	43	2	68	2	50	2	49	2	65	2	57	2	52	2	58	2
特支 知的	4	1	3	1	6	1	5	1	6	1	5	1	4	1	3	1	0	0	0	0
特支 自情	7	1	11	2	11	2	10	2	11	2	13	2	13	2	7	1	2	1	0	0
中学校 計	151	8	176	9	178	9	182	9	181	9	189	9	191	9	177	8	164	7	173	6
小中学校 計	553	26	562	27	560	25	577	25	557	23	556	22	550	21	-	-	-	-	-	-

**1 学年
2～3 学級規模**

・山波小は現状でも
2 学級規模

② 義務教育学校（長江中学校区）

・長江小＋土堂小＋長江中

	R 4		R 5		R 6		R 7		R 8		R 9		R 10							
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	R 1 1	R 1 2	R 1 3			
小学校 1 年生	24	1	29	1	33	1	24	1	21	1	21	1	13	1						
2 年生	38	2	24	1	29	1	33	1	24	1	21	1	21	1						
3 年生	54	2	38	2	24	1	29	1	33	1	24	1	21	1						
4 年生	74	2	54	2	38	2	24	1	29	1	33	1	24	1						
5 年生	76	2	74	2	54	2	38	2	24	1	29	1	33	1						
6 年生	80	2	76	2	74	2	54	2	38	2	24	1	29	1						
特支 知的	2	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
特支 自情	10	2	10	2	10	2	10	2	6	1	4	1	0	0						
特支 難聴	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
小学校 計	359	15	307	13	263	12	212	10	175	8	156	7	141	6						
中学校 1 年生	63	2	74	2	70	2	68	2	50	2	35	1	22	1	27	1	30	1	22	1
2 年生	69	2	63	2	74	2	70	2	68	2	50	2	35	1	22	1	27	1	30	1
3 年生	63	2	69	2	63	2	74	2	70	2	68	2	50	2	35	1	22	1	27	1
特支 知的	2	1	0	0	1	1	2	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
特支 自情	3	1	2	1	1	1	0	0	4	1	6	1	10	2	6	1	4	1	0	0
特支 難聴	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学校 計	200	8	209	8	210	9	215	8	194	8	160	7	117	6	90	4	83	4	79	3
小中学校 計	559	23	516	21	473	21	427	18	369	16	316	22	258	12	-	-	-	-	-	-

**1 学年
1 学級規模**

第 2 の再編が必要

③ 小中一貫教育校

- ・久保小＋長江小＋土堂小＋山波小
- ・久保中＋長江中

		R 4		R 5		R 6		R 7		R 8		R 9		R 10	
		人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
4 小学校の 統合	小学校 1 年生	80	3	92	3	90	3	93	3	80	3	82	3	63	2
	2 年生	100	3	80	3	92	3	90	3	93	3	80	3	82	3
	3 年生	125	4	100	3	80	3	92	3	90	3	93	3	80	3
	4 年生	127	4	125	4	100	3	80	3	92	3	90	3	93	3
	5 年生	130	4	127	4	125	4	100	3	80	3	92	3	90	3
	6 年生	154	4	130	4	127	4	125	4	100	3	80	3	92	3
	特支 知的	11	2	11	2	6	1	4	1	3	1	0	0	0	0
	特支 自情	33	5	28	4	25	4	23	3	13	2	6	1	0	0
	特支 難聴	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小学校 計	761	30	693	27	645	25	607	23	551	21	523	19	500	17

**1 学年
3 学級規模**

- ・山波小は現状でも
2 学級規模

		R 4		R 5		R 6		R 7		R 8		R 9		R 10		R 11		R 12		R 13	
		人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
2 中学校の 統合	中学校 1 年生	106	3	142	4	120	3	117	3	115	3	92	3	74	2	85	3	83	3	86	3
	2 年生	120	3	106	3	142	4	120	3	117	3	115	3	92	3	74	2	85	3	83	3
	3 年生	109	3	120	3	106	3	142	4	120	3	117	3	115	3	92	3	74	2	85	3
	特支 知的	6	1	3	1	7	1	7	1	8	1	6	1	4	1	3	1	0	0	0	0
	特支 自情	10	2	13	2	12	2	10	2	15	2	19	3	23	3	13	2	6	1	0	0
	特支 難聴	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中学校 計	351	12	385	14	388	14	397	14	375	12	349	13	308	12	267	11	248	9	254	9

3 施設面からの検討について

施設面からの検討

検討内容・手順

- ①学校再編後の学校規模において、考えられる建築場所の組み合わせを検討する。
- ②①の組み合わせごとに建物・グラウンド基準面積・その他施設の整備状況を整理する。
- ③②における工事の流れを想定し、居ながら施工可能かの判断し、児童生徒の負担の大小を検討し、優先順位付けを行う。

整備する場所の検討（候補地は？）

① 2中学校統合校（久保中、長江中）

（ア）久保中学校敷地内

（イ）長江中学校敷地内

② 3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

（ウ）久保小学校敷地内

（オ）土堂小学校敷地内

（エ）長江小学校敷地内

（カ）長江中学校敷地内

学級数を満たす建物が
準備できるか？

児童生徒数に応じた
グラウンド基準を満た
すか？

施設整備（工事施工）時の
課題は何か？

など

検討にあたっての考え方 設置可能と判断（推奨）するには・・・

設置可能な条件

(1)

敷地内に、必要学級を収容できる校舎、プール、屋内運動場があること
(校舎内にプール又は屋内運動場を設置する場合を含む)

(2)

児童生徒数に応じたグラウンド基準面積が確保できていること

(3)

居ながら施工等が可能で児童生徒の負担が少なく新たな施設整備が可能であること

(4)

敷地内及び周辺の大部分が土砂災害防止法の特別警戒区域・警戒区域でないこと

凡例

(1)

(1)

(1)

まずは、㊤2中学校統合校の検討

㊤2中学校統合校（久保中、長江中）

（ア）久保中学校敷地内

（イ）長江中学校敷地内

検討結果 比較一覧

①2中学校統合校（久保中、長江中）

○内の数値が少ないほど有利 有利①→不利③
 黒地白抜き数値は、他の敷地へ移転が必要な状況

	配置	教室確保	グラウンド 基準面積	施設 充実度	コスト 比較	児童生徒 の負担	
①久保中学校敷地	敷地北側へ新校舎	○（13教室）	○8,000㎡	②（◎）	①	①（○）	
②久保中学校敷地	現在の位置へ新校舎	○（13教室）	○7,170㎡	①（◎）	②	②（△）	
③長江中学校敷地	現在の位置へ新校舎	○（13教室）	○5,500㎡	③（△）	-（①*）	③（×）	校舎改築×

※③は校舎の改築ができないため、既存校舎の継続使用を行うしかない
 （改修も困難な状況）

○考察

①～②まで、教室の確保、グラウンドの基準面積の確保はできる状況。比較対象として、**久保中学校敷地は長江中学校敷地よりグラウンド面積が大きく**、部活動を行う中学校の適地としては、久保中学校敷地が優位と判断する。

また、**③（長江中学校敷地での工事）は、居ながら施工が困難**であるため、生徒の移動が必要となり、一旦他の敷地へ動き、改めて長江中学校敷地へ移転することから、比較して負担が大きいため不利である。あわせて、**現行施設を使用せざるを得なく、久保中と比較して施設整備面で劣る。**

検討結果①

① 2中学校統合校（久保中、長江中）

R9 学級数 13学級 (9+4)
人数 349人



敷地内（敷地北側）へ校舎を改築
(ア) 久保中学校敷地内

R9 グラウンド基準面積
4,690m²

普通教室13教室 (9+4)
使用可

(1) 学級を満たす建物はOK

(2) グラウンド基準OK

屋内運動場との動線×
(屋内運動場の玄関は南側)

グラウンド面積
8,000m²

検討結果①

敷地内（敷地北側）へ校舎を改築

① 2中学校統合校（久保中、長江中）

（ア）久保中学校敷地内

(1)	(2)	(3)	(4)
○	○	○	○

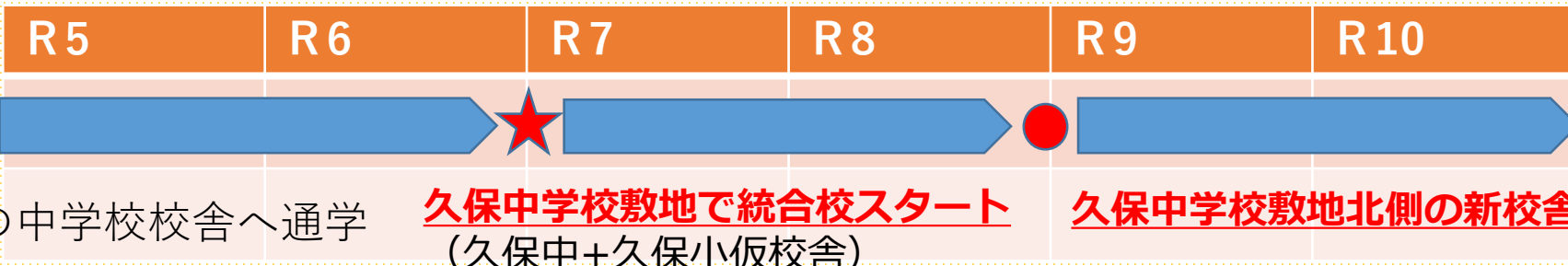
- (1) 校舎・プール・屋内運動場の設置状況
- (2) グラウンドの基準面積
- (3) 工事施工時の児童生徒への負担（居ながら施工の可否、工事時の移転の有無など）
- (4) 敷地周辺の土砂災害防止法による特別警戒区域、警戒区域の状況



(3)
居ながら施工が可
生徒への負担小

R8年度
新校舎完成

各中学校→久保中学校敷地



検討結果②

① 2中学校統合校（久保中、長江中）

R9 学級数 13学級 (9+4)
人数 349人



敷地内（現在と同じ位置）へ校舎を改築

(ア) 久保中学校敷地内

R9 グラウンド基準面積
4,690m²

普通教室13教室 (9+4)
使用可

(1)

学級を満たす建物はOK

(2)

グラウンド基準OK

グラウンド面積
7,170m²

改築時に仮設校舎が必要

検討結果②

① 2中学校統合校（久保中、長江中）

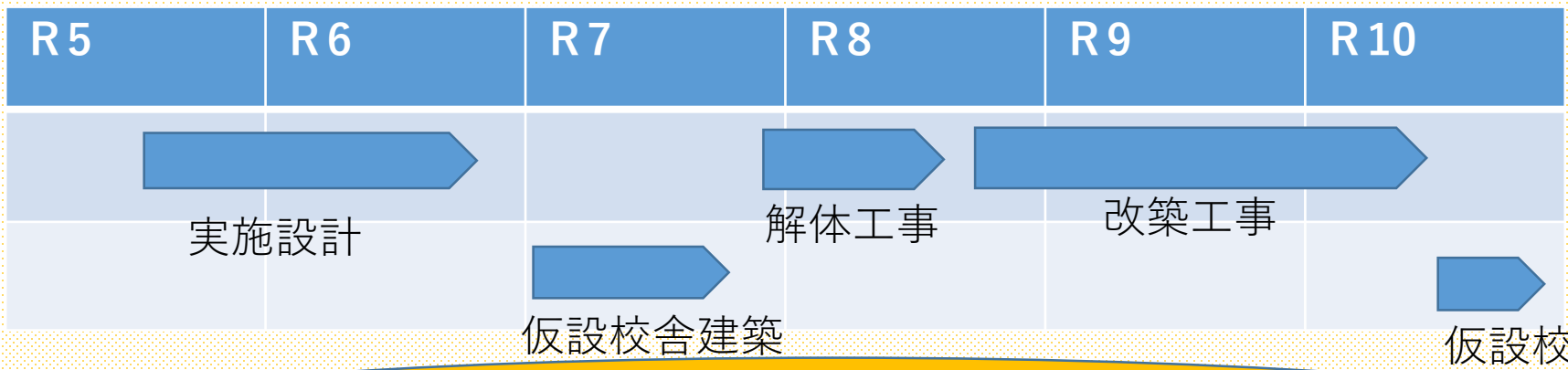
敷地内（敷地北側）へ校舎を改築

(ア) 久保中学校敷地内

(1)	(2)	(3)	(4)
○	○	▲	○

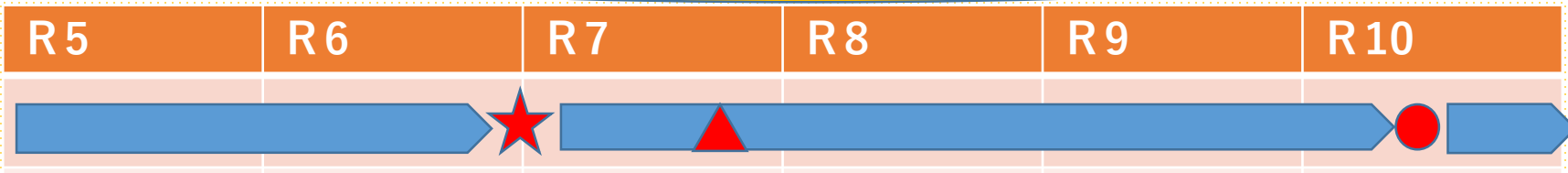
大まかな工事の流れ

工事に仮設校舎が必要



(3) 仮設校舎への移転
生徒への負担あり
+ スケジュール遅い

各中学校 → (久保中敷地内仮設校舎) → 久保中学校敷地



(既存校舎 ⇒ ▲ 仮設校舎へ途中で移転)

①2中学校統合校（久保中、長江中）

（イ）長江中学校敷地内

校舎敷地（東側）とグラウンド敷地（西側） がある

どちらの敷地がグラウンドが大きく確保できるのか？
（小学校と比較して部活等でより大きな面積が必要）

検討結果③

㊤2中学校統合校（久保中、長江中）

(イ) 長江中学校敷地内

R9 学級数 13学級 (9+4)
人数 349人

R9 グラウンド基準面積
4,690^m²

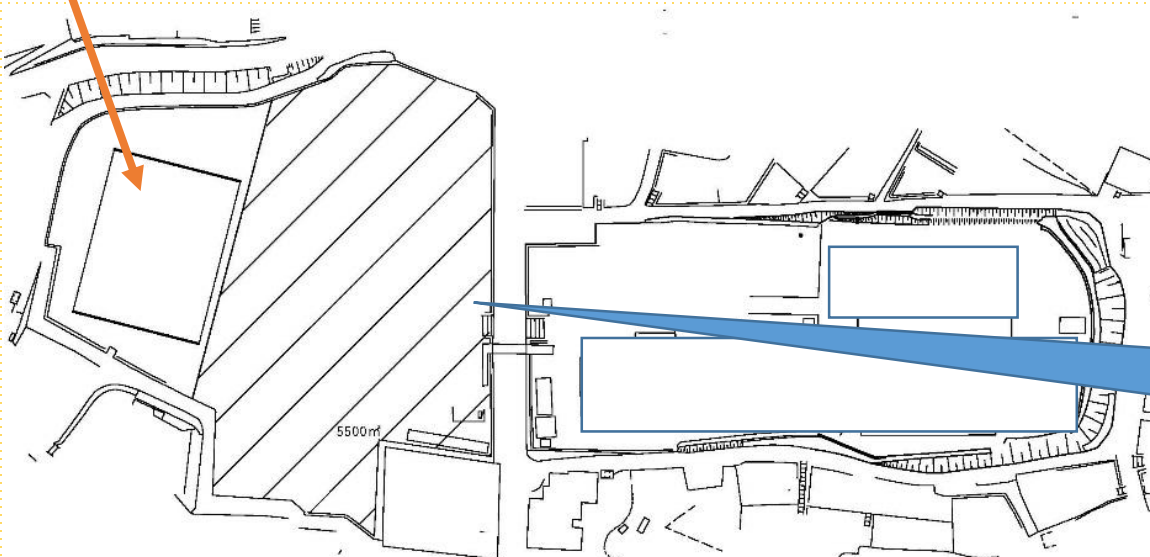
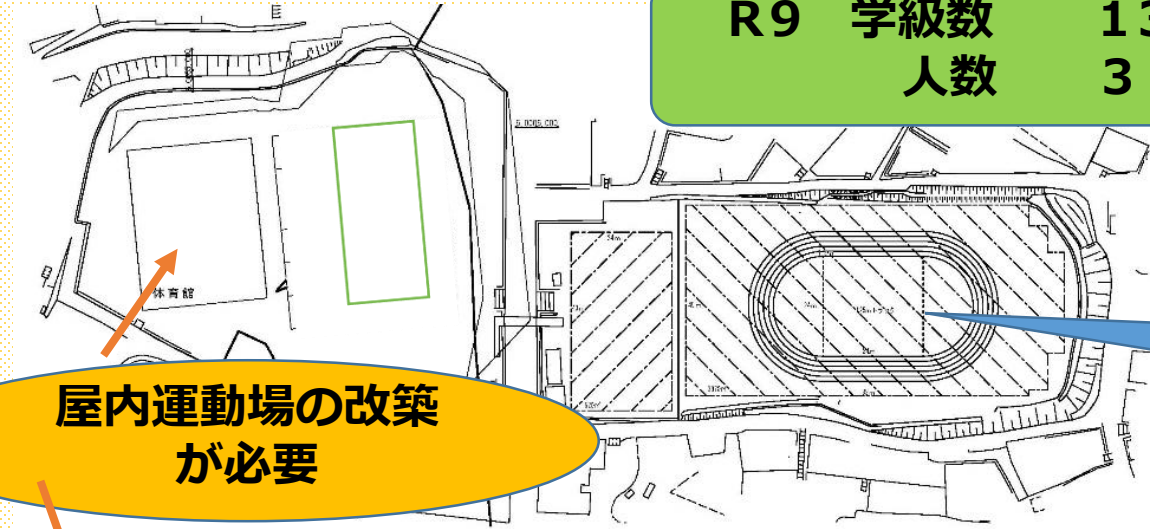
久保中グラウンド面積
8,000^m²

東側にグラウンド
3,920^m²+520^m²
(上段) + (下段)

久保中学校敷地よりも面積 小

西側にグラウンド
5,500^m²
(屋内運動場 改築後)

屋内運動場の改築
が必要



検討結果③

②2中学校統合校（久保中、長江中）

(イ) 長江中学校敷地内



工事中仮設校舎などが必要
結果、グラウンドがない状況に

3年間の工事期間
学校運営不可

新校舎の整備不可

検討結果③

敷地内（現在と同じ位置）へ校舎を改築

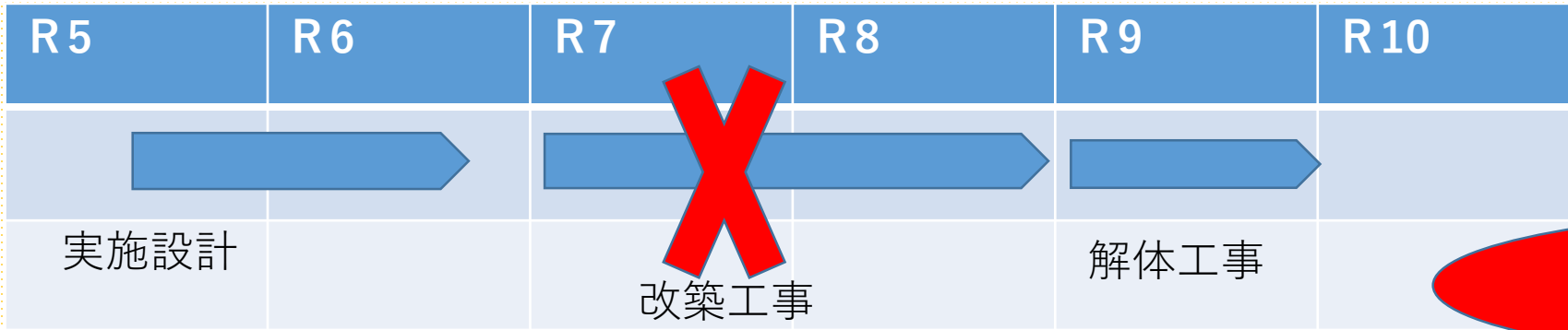
(1)	(2)	(3)	(4)
×	○	×	○

① 2中学校統合校（久保中、長江中）

(イ) 長江中学校敷地内

大まかな工事の流れ

久保中学校敷地より
グラウンド面積 小



居ながら施工不可



新たな校舎を建築する場合
工事中3年間グラウンドなし
仮移転先なし

2中学校統合校の検討結果

①2中学校統合校（久保中、長江中）

優位

(ア) 久保中学校敷地内

(イ) 長江中学校敷地内

次は、㊦3小学校統合校の検討

㊦3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

長江小学校敷地
土堂小学校敷地
には
新たな施設整備は行わない方針

(ウ) 久保小学校敷地内

(才) 土堂小学校敷地内

(工) 長江小学校敷地内

(力) 長江中学校敷地内

検討結果 比較一覧

㊤3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

○内の数値が少ないほど有利 有利①→不利⑤
黒地白抜き数値は、他の敷地へ移転が必要な状況

	配置	教室確保	グラウンド 基準面積	施設 充実度	コスト 比較	児童生徒 の負担	
④久保小学校敷地	改築	○（15教室）	○3,500㎡	②（○）	①	②（△）	—
⑤長江小学校敷地	敷地内に改築	○（15教室）	○4,350㎡	③（○）	⑤	①（○）	周囲が 特別警戒区域
⑥土堂小学校敷地	敷地内に改築	○（15教室）	×1,930㎡	④（×）	⑥	①（○）	周囲が 特別警戒区域
⑦長江中学校敷地	グラウンド側へ校舎	○（15教室）	○4,440㎡	①（◎）	—（④）	③（×）	校舎改築×
⑧長江中学校敷地	現在の位置へ校舎	○（15教室）	○5,500㎡	①（◎）	—（③）	③（×）	校舎改築×
⑨長江中学校敷地	現グラウンド側だけに 集約	○（15教室）	○4,160㎡	①（○）	②	①（○）	

○考察

⑤、⑥の長江小学校敷地、土堂小学校敷地では新たな施設整備を行わない→×

④、⑨の久保小学校敷地、長江小学校敷地では共に整備可能。ただし、④久保小学校敷地での対応については、一旦長江中学校等で開校した後、久保小学校へ移転する必要が生じるため、児童への負担が懸念材料となる。

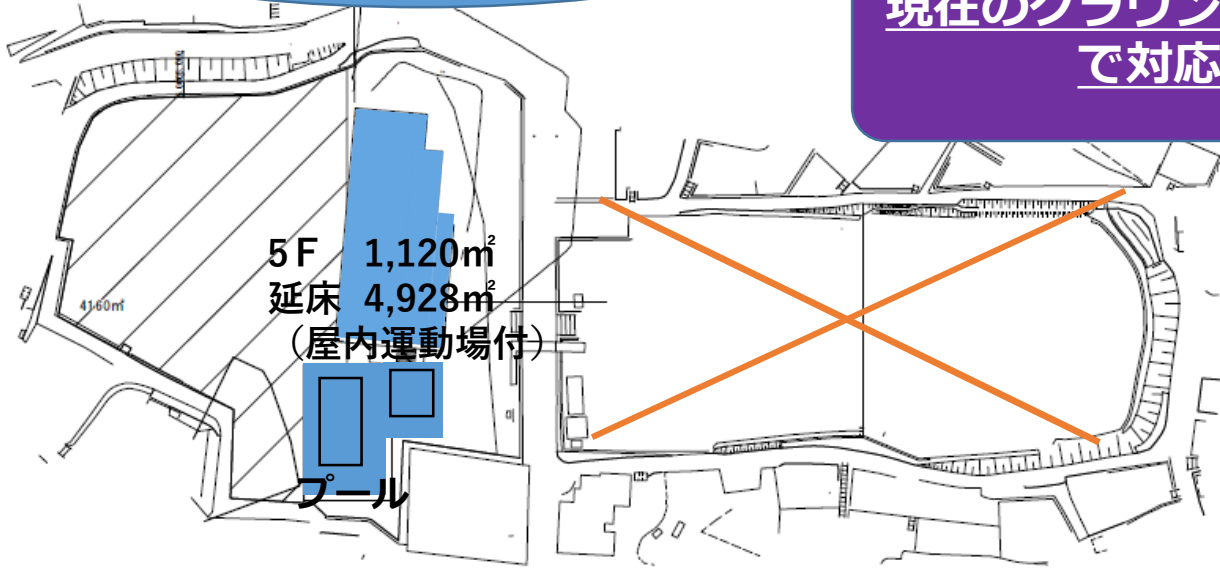
④、⑨が候補となる状況（やや⑨が有利と考える）。

検討結果⑨

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

R9 学級数 13学級（12+1）
人数 247人

普通教室15教室（12+3）
使用可
（屋内運動場含む）



グラウンド面積
4,160m²

グラウンド側敷地へすべてを集約

（ウ）長江中学校敷地内

R9 グラウンド基準面積
2,470m²

(1) 学級を満たす建物はOK
（5F建て）

校舎の構造が5階となり
文部科学省の指針にあわない

(2) グラウンド基準OK

検討結果⑨

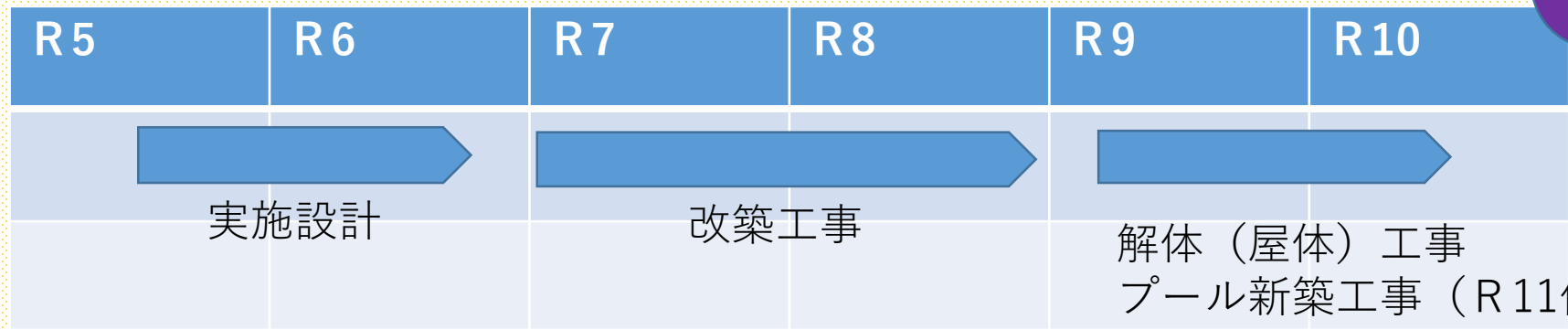
③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

グラウンド側敷地へすべてを集約

(ウ) 長江中学校敷地内

(1)	(2)	(3)	(4)
○*	○	○	○

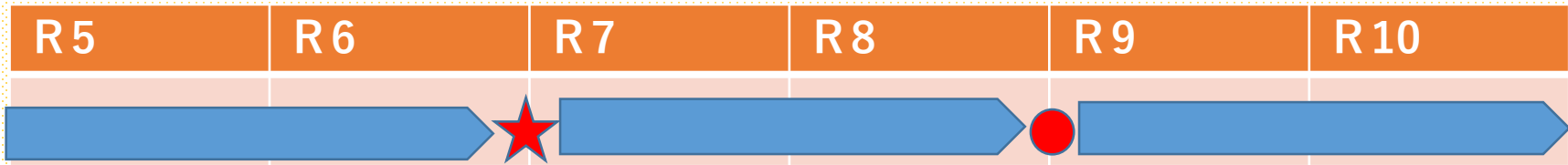
大まかな工事の流れ



(3) 既存校舎+仮校舎を使用して、居ながら施工可
負担=少ない

各小学校→長江中学校敷地

R8年度
新校舎完成



現在の仮校舎へ通学 長江中学校敷地で統合校スタート (長江中+長江小仮校舎) 長江中学校敷地内 新校舎へ通学

検討結果⑨

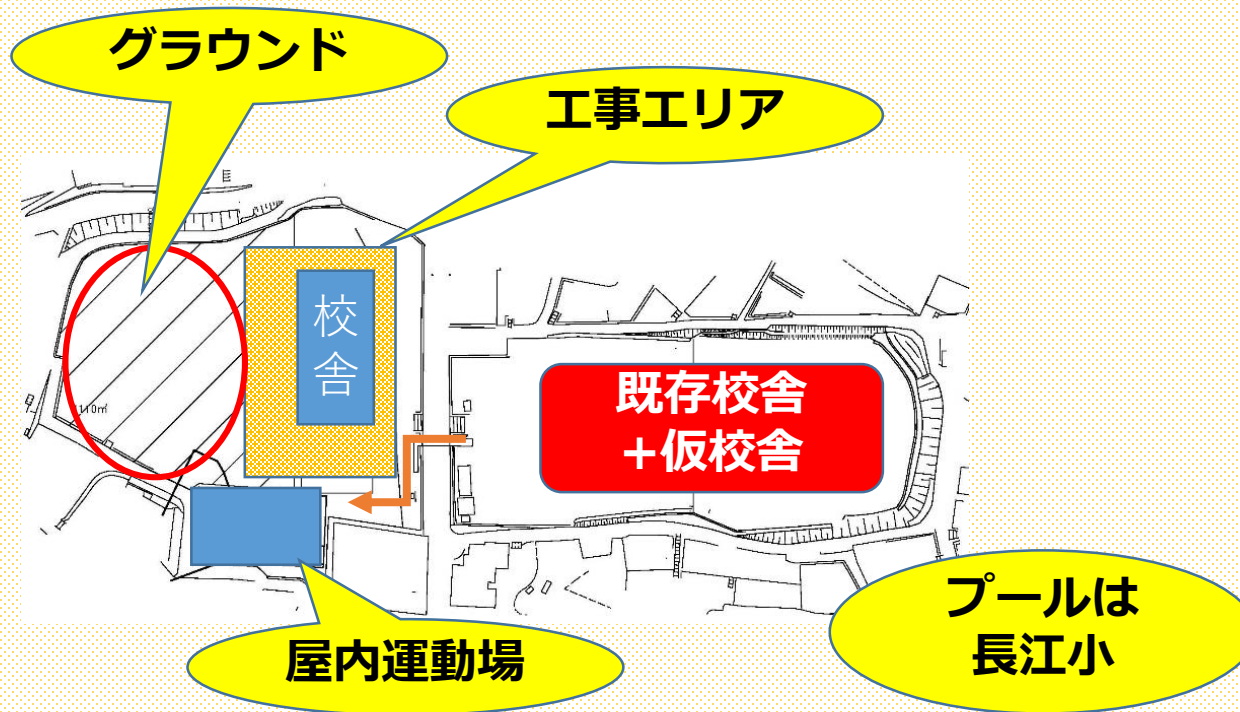
グラウンド側敷地へすべてを集約

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

(ウ) 長江中学校敷地内

工事エリアを除いた部分でグラウンド面積、屋内運動場の使用が可能

居ながら施工〇

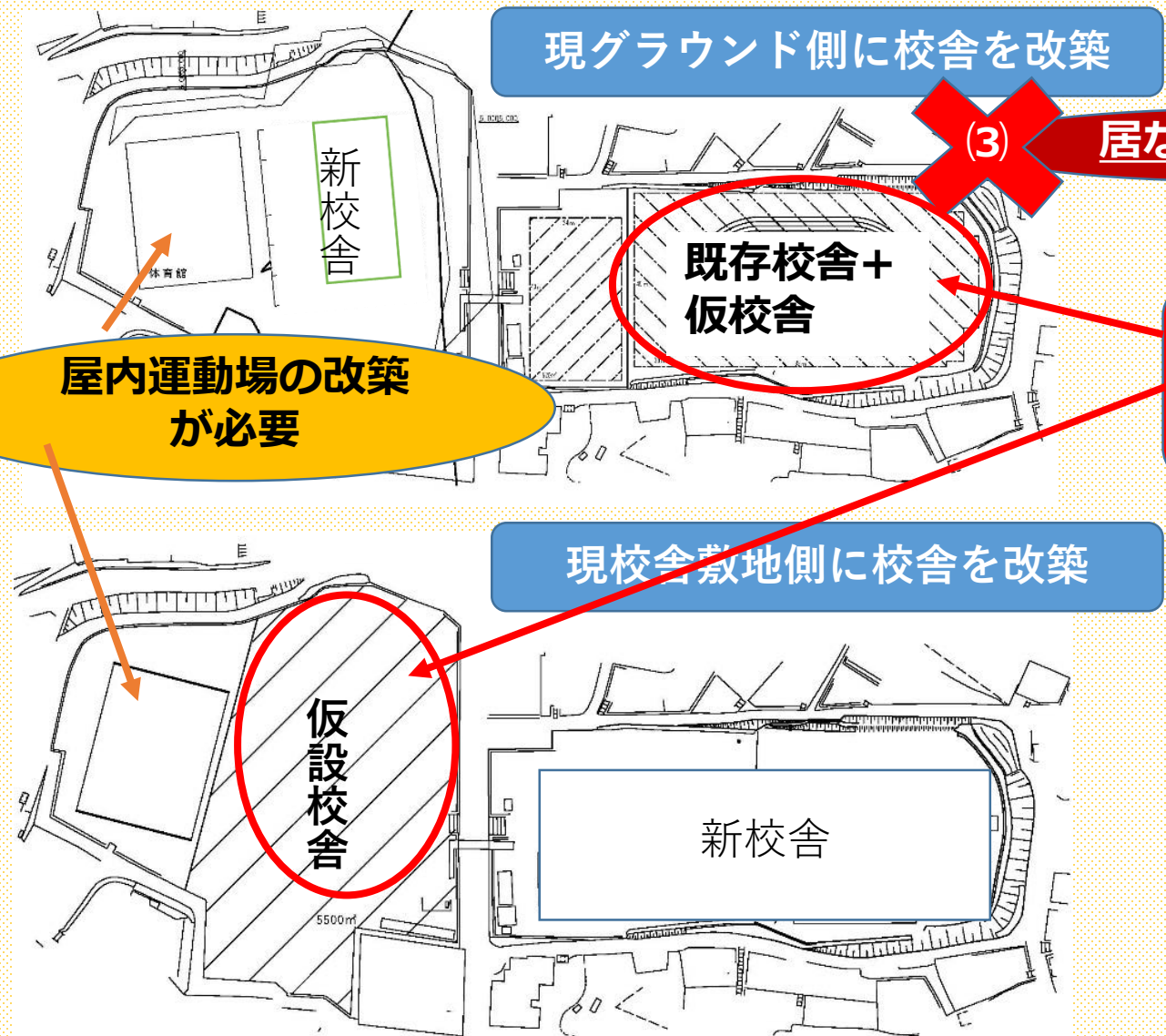


検討結果⑦、⑧

(1)	(2)	(3)	(4)
○*	○	×	○

③ 3小学校統合校 (久保小、長江小、土堂小)

(ウ) 長江中学校敷地内

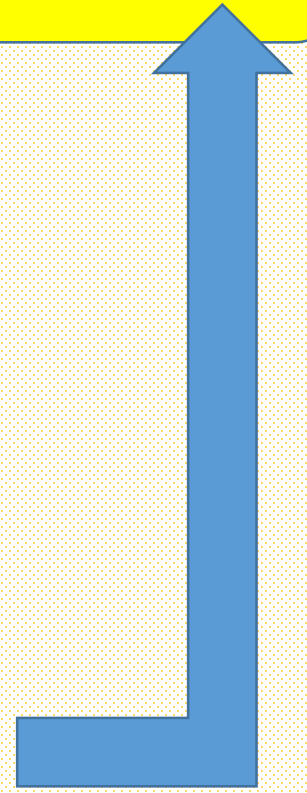


既存校舎+仮校舎を継続使用
※よりよい環境とならない

工事中仮設校舎が必要
結果、グラウンドがない状況に

3年間の工事期間
学校運営不可

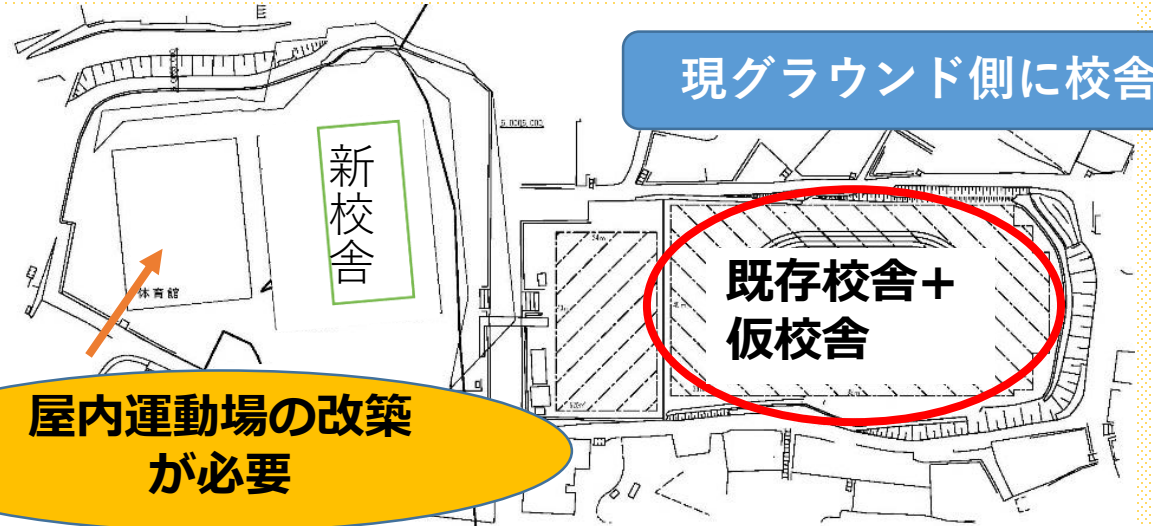
新校舎の整備不可



検討結果⑦、⑧

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

(ウ) 長江中学校敷地内

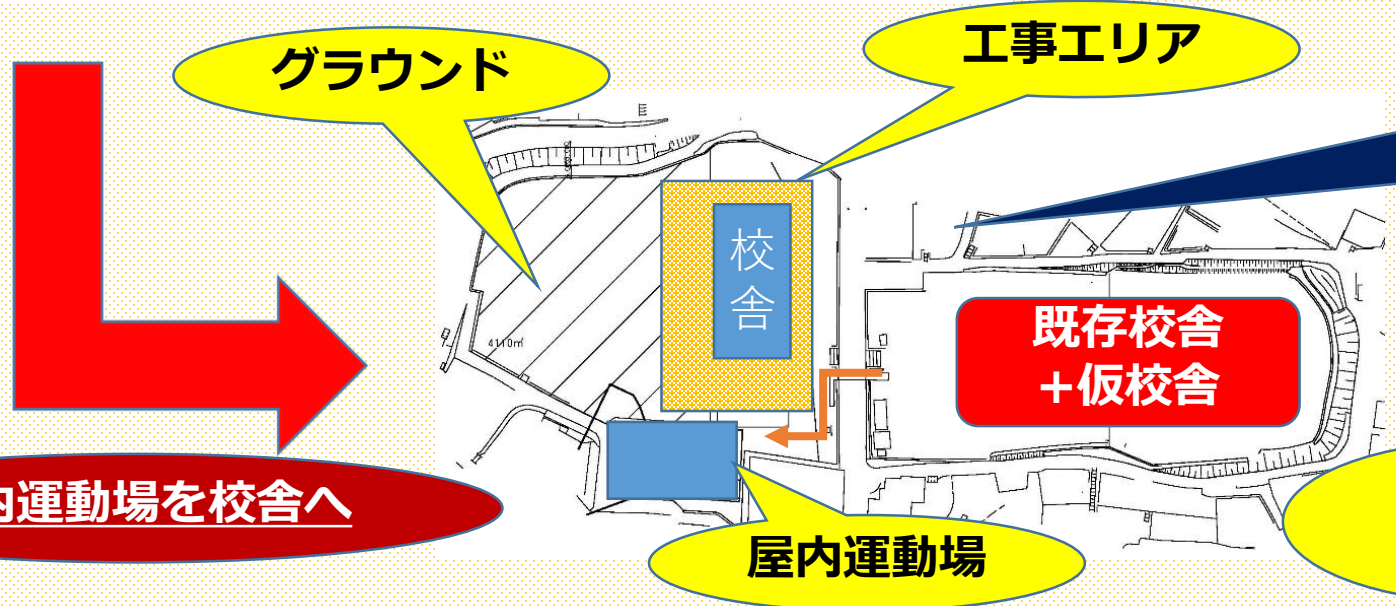


居ながら施工×

工事期間中
グラウンドなし

居ながら施工○

工事期間中
グラウンド・屋内運動場
確保



屋内運動場を校舎へ

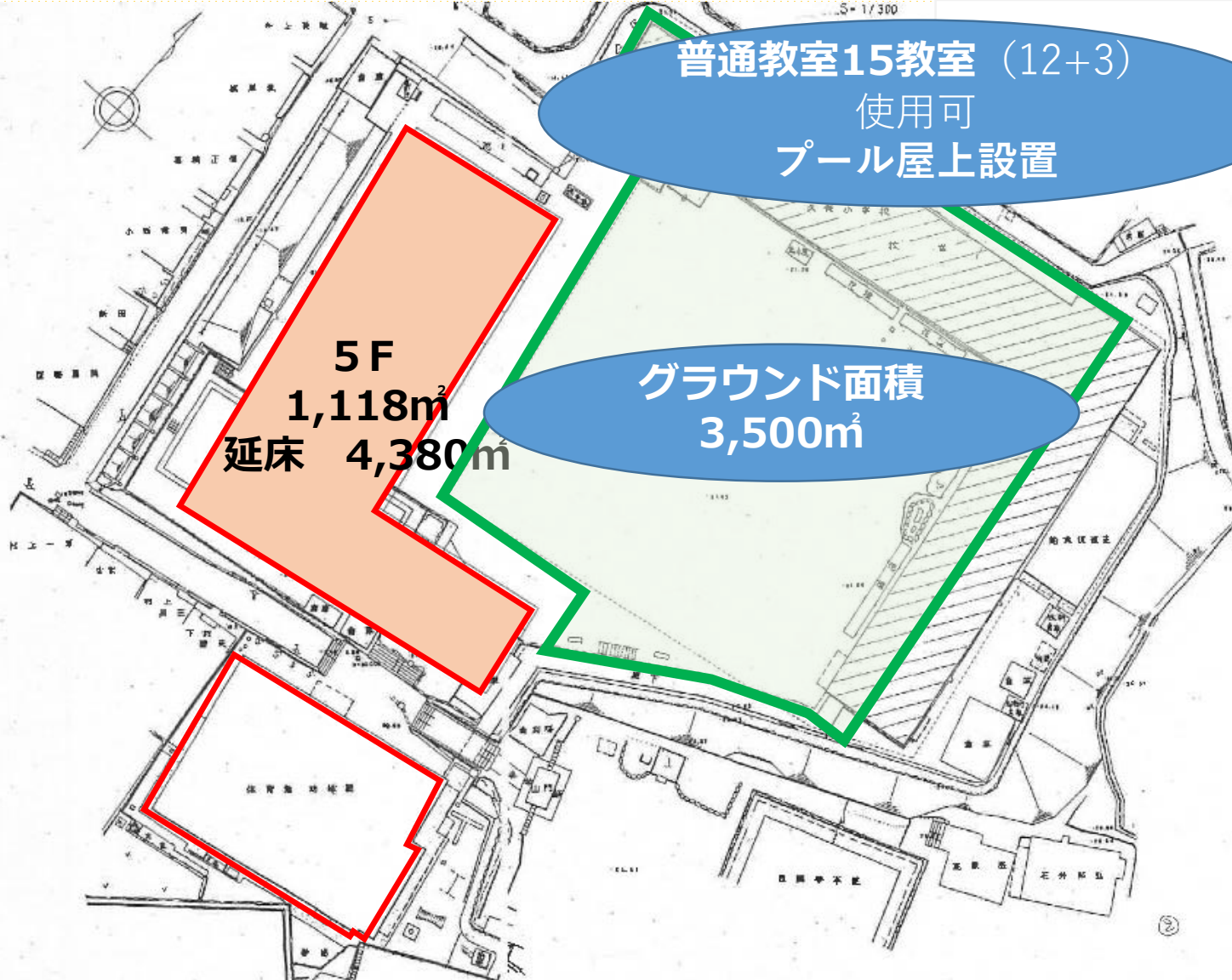
プールは
長江小

検討結果④

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

敷地内へ改築

(イ) 久保小学校敷地内



R9 学級数 13学級 (12+1)
人数 247人

R9 グラウンド基準面積
2,470m²

校舎の構造が5階となり
文部科学省の指針にあわない

(1) 学級を満たす建物はOK
(5F建て)

(2) グラウンド基準OK

検討結果④

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

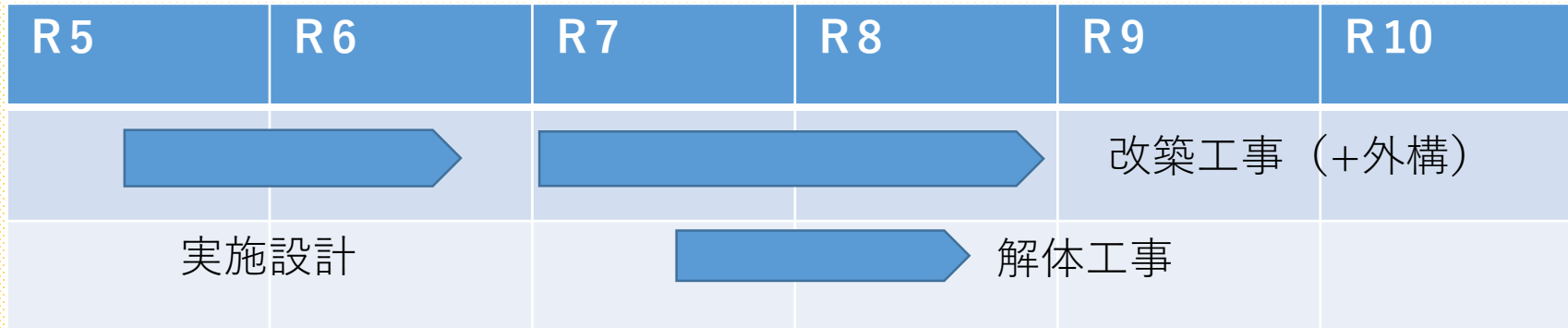
敷地内へ改築

(イ) 久保小学校敷地内

(1)	(2)	(3)	(4)
○*	○	△	○

大まかな工事の流れ

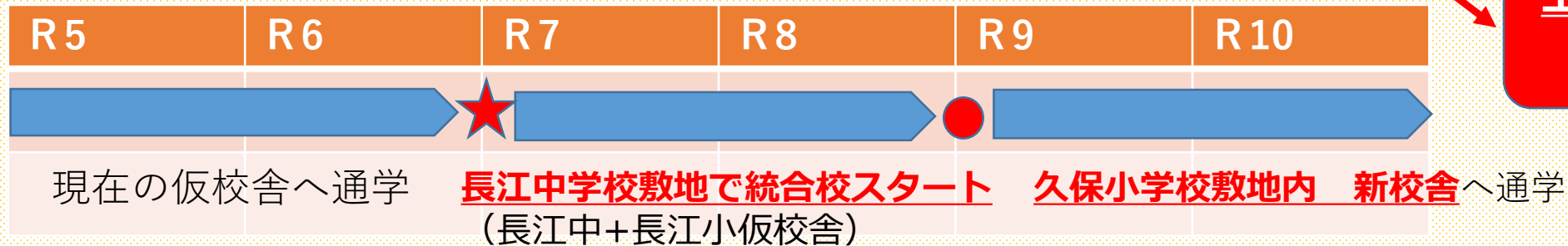
工事に支障なし



工事箇所が無人のため
児童への負担小

各仮校舎→長江中→久保小

工事期間中の児童の負担大



検討結果⑤

敷地内へ校舎を改築

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

(工) 長江小学校敷地内

敷地内、背後地が
土砂災害特別警戒区域

普通教室15教室 (12+3)
使用可
プール屋上設置

R9 学級数 13学級 (12+1)
人数 247人

R9 グラウンド基準面積
2,470㎡

安全性の確保

×

(1)

学級を満たす建物はOK
(5F建て)

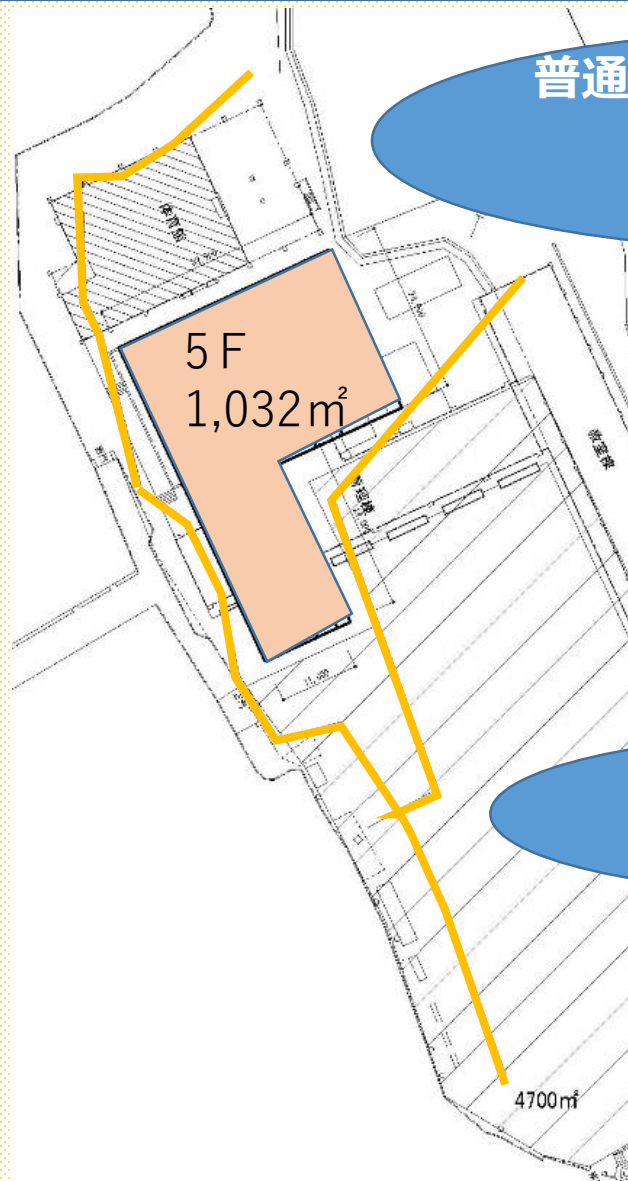
グラウンド面積
4,350㎡

校舎の構造が5階となり
文部科学省の指針にあわない

工事の施工性 難
(進入路 狭小のため)

(2)

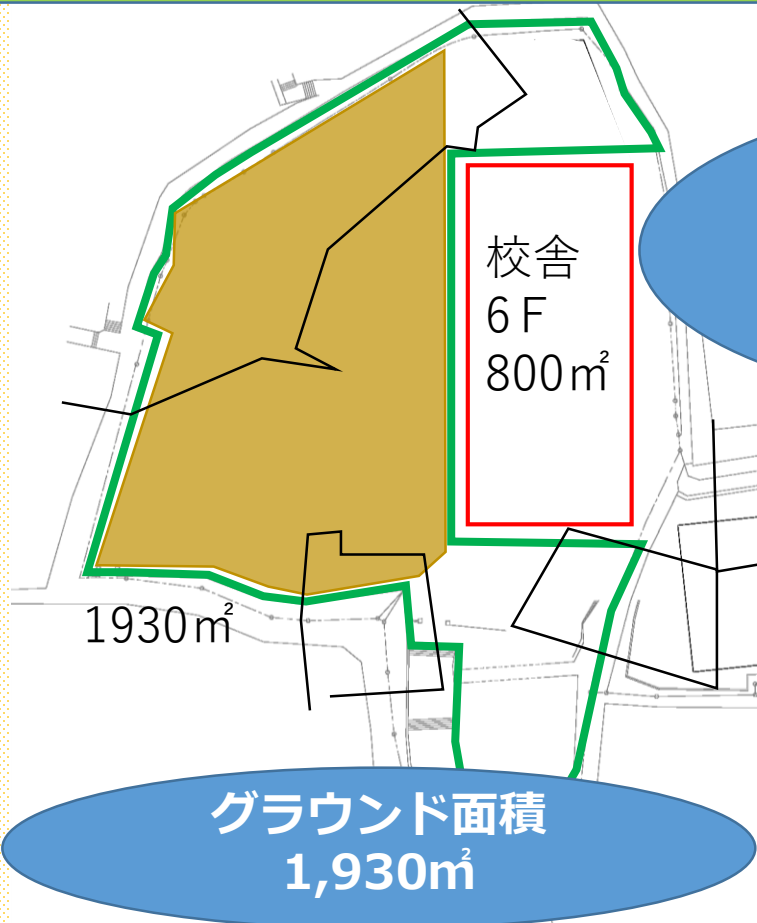
グラウンド基準OK



検討結果⑥

③3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

R9 学級数 12学級（12+1）
人数 247人



敷地内へ改築

(ア) 土堂小学校敷地内

敷地内、背後地が
土砂災害特別警戒区域

R9 グラウンド基準面積
2,470m²

普通教室15教室（12+3）
使用可
※5階に教室あり
※プール屋上設置

安全性の確保
×

(1)

学級を満たす建物はOK
（6F建て）

校舎の構造が6階となり
文部科学省の指針にあわない

(2)

工事の施工性 難
（進入路 狭小のため）

グラウンド
基準面積を満たさない

② 3小学校統合校の検討結果

② 3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

久保小学校敷地での対応については、R7年度において一旦長江中学校等で開校した後、久保小学校へ移転する必要が生じるため、児童への負担が懸念材料となる。



長江中学校敷地内 優位

(ウ) 久保小学校敷地内

(オ) 土堂小学校敷地内

(工) 長江小学校敷地内

(カ) 長江中学校敷地内

優位

検討結果 比較一覽

①2中学校統合校（久保中、長江中）

（ア）久保中学校敷地内

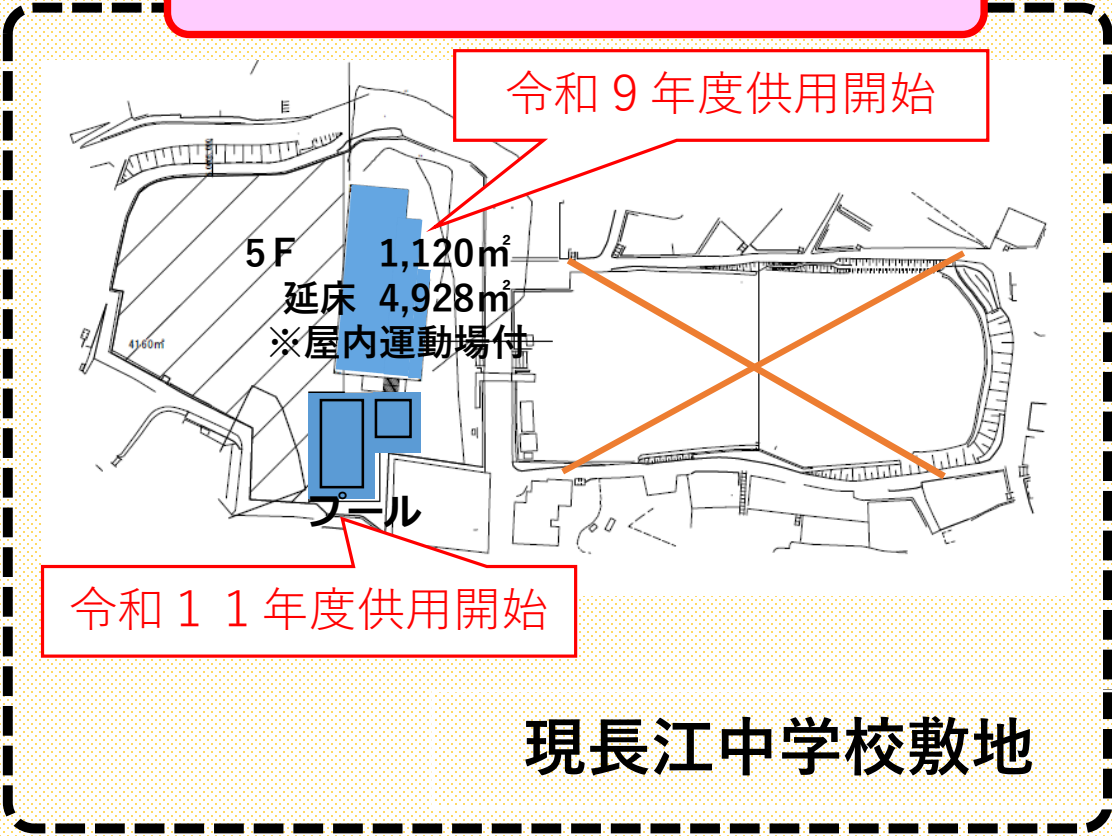
②3小学校統合校（久保小、長江小、土堂小）

（カ）長江中学校敷地内

4 まとめ

令和7年度開校 ⇒ 令和9年度新築校舎使用開始

新しい小学校



新しい中学校



尾道教育の新しい風

尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校

小中一貫教育校

(令和7年度開校 ⇒ 令和9年度新築校舎使用開始)

